

フェリチン高値

東京女子医科大学血液内科助教

石山 みどり

(聞き手 池脇克則)

フェリチン高値についてご教示ください。

56歳、男性で漁師（身長175cm、体重71～73kg）、3年前から高血圧にて降圧剤を服用していて、血圧のコントロールは良好。3年前から現在まで、Hb 12.5～13.7、RBC 406～449×10⁴、Ht 35.9～39.8、MCV 87.1～89.4と軽度低値。それ以外は正常範囲。血清鉄48～62。フェリチン776.79～923.26ng/mLと異常高値が続いています。

降圧剤以外は服薬なく、仕事を普通にこなしています。診断、鑑別、対処法などをご教示ください。

<千葉県開業医>

池脇 フェリチンについては先生方も日常診療で測っておられると思うのですが、そもそもフェリチンとは何なのか。基本的なところから教えてください。

石山 フェリチンとは、球形のアポフェリチンの殻の中に鉄ミセルを保有している可溶性の巨大な鉄貯蔵蛋白です。肝臓や脾臓に多く含まれますが、骨髄、肺、膵臓など、あらゆる臓器に存在していますし、体液中にも存在しています。

池脇 フェリチンは蛋白ですが、鉄

が結合した複合体ということで、蛋白の部分は正確にはアポフェリチンなのですね。しかも、ほぼ全身の臓器というか、細胞に存在している。

石山 はい。

池脇 鉄ですから、一般的には貧血にも関係するし、様々な疾患と関係しているものだと思います。

石山 はい。

池脇 そして今回の質問についてですが、血液内科の立場で、これをどう解釈されるのでしょうか。

石山 確かに軽い貧血はあるかと思

うのですけれども、フェリチンも少し高い状態ですし、もし血液疾患であるならば、無効造血をきたすような骨髓異形成症候群やβサラセミアなどが鑑別に挙がるのではないかと思います。

池脇 今言われたのは頻繁にはない疾患だと思うのですけれども、これらの疾患は、ちょっとフェリチンから離れて、このぐらいの軽度の、あるいは正常とちょっとオーバーラップするぐらいのヘモグロビンが数年ぐらい横ばいで続くものなのでしょうか。

石山 例えばβサラセミアなどでは、時々こういう軽い貧血でずっと推移している方はいますし、特発性血球異形成という骨髓異形成症候群の前段階のような疾患がありますが、そういうものでは軽い貧血のみということもあります。そういう場合に、末梢血の塗抹標本を見てみると、形態異常を認めることがあります。日常診療で軽い貧血がある場合には、末梢血の塗抹標本を見ていただくとかかなり参考にはなると思います。

池脇 血清鉄の解釈はどのようなでしょう。

石山 血清鉄はほぼ正常な値だと思いますが、鉄に関しては血液疾患では上昇することが多いので、これだけでは何とも言えません。

池脇 この方は漁師であるということ。そして高血圧の内服治療をされている。これとフェリチンあるいは軽度

の貧血、これらに関連性があるのかなのか、いかがでしょう。

石山 おそらくないと思いますけれども、漁師さんの生活環境で鉄を過剰に摂取するような状況などがあればフェリチンに影響する可能性はあるかもしれません。

池脇 鉄を慢性的に過剰に摂っていると、鉄も上がってよさそうですねけれども、フェリチンも反応性に上がるものなのですか。

石山 そういうこともあるかもしれません。

池脇 フェリチンが700~900台という数字ですが、正常が男性だと200幾つぐらい、女性がちょっと低いぐらい。1,000をちょっと下回るぐらいの数字について、異常の程度はどう考えられますか。

石山 非常に高値とは言いがたいと思うのですけれども、正常よりは確かに高い値かなという印象です。

池脇 女性のほうが男性よりもちょっと正常値が低いのは何か理由があるのでしょうか。

石山 それはちょっとわからないです。

池脇 質問の先生は、多分自覚症状はなくてということでしょうけれども、こういった状況で、考えられる疾患、そして対処をどうしたらいいかということです。これだけの情報で診断まで持っていくのは、なかなか難しいと思

うのですけれども、どうでしょうか。

石山 おっしゃるとおり、フェリチンが上昇する疾患というのは、かなり多岐にわたっています。貯蔵鉄が増えている場合が、まず1つ考えられると思います。貯蔵鉄が増える病気は幾つもありますが、遺伝性に鉄吸収の増加する原発性ヘモクロマトーシスや、たくさん輸血をしている方などはフェリチンが上がります。また慢性の炎症があったり、悪性腫瘍などでも上がってくることもあるので注意が必要です。

池脇 慢性炎症であれば、炎症のマーカーで、ある程度鑑別がつくことになりますね。それ以外に、先ほどβサラセミアとか、いわゆる血液疾患も鑑別に入ってくるのでしょうか。

石山 そうですね。

池脇 あるいは、先生の専門と少しずれるかもしれませんが、膠原病もこういうときには一応考えたほうがいいのでしょうか。

石山 そうですね。考えていただいたほうがよいと思います。

池脇 年齢的にSLEというのはどうかと思いますけれども、あと成人スチル病ですが、フェリチンの高値は合致しても、ほかの異常値、あるいは症状等々があるので、この症例に関してはちょっと考えにくいでしょうか。

石山 考えにくいと思います。

池脇 そうすると、今の時点ではこういった程度のフェリチン高値で、幾

つかの疾患が考えられることから、それぞれのものに関しての必要な検査をしていくということでしょうか。

石山 そうですね。

池脇 対処や治療は、なかなか今の時点では難しい。本人は元気にされているということになると、極端な例として、先ほどのMDSとか、あるいはβサラセミアで、こういった潜在的なものもあるということでしょうか。仮にβサラセミアだとすると、治療の対象になるのでしょうか。

石山 特に治療を要さないぐらいの軽い貧血ですので、このまま経過を観察するというのでよいと思います。

池脇 逆に、フェリチンが低い状況というのは、いわゆる貧血で多いように思うのですけれども、そのあたりの考え方を簡単にまとめていただけますか。

石山 フェリチンが低値となる場合とは、鉄が欠乏した状態ということでよいと思います。鉄欠乏性貧血ではもちろん下がりますけれども、いろいろな原因で下がる場合があります。例えば、妊娠中とか成長期などでは鉄需要の増大によりフェリチン低値となりますし、スポーツをたくさんする方は低くなることもあります。

池脇 改めてフェリチン高値に関してですが、最近、肝疾患とフェリチンの関係についてよく聞くように思うのですけれども、どうなのでしょう。

石山 最近、非アルコール性の脂肪肝疾患の患者さんでは、フェリチンが高値となることがよく報告されています。BMIが高い方は特にフェリチンも上がる人が多いということもあるので、フェリチンが少し高くて肝酵素が上がっている方とか、脂肪肝のある方に関しては、肝臓の専門医に一度診ていただくのがよいと思います。

池脇 そういった病気で挙がるのは、肝臓の細胞が壊れて出てくるという考え方なのでしょうか。この方の肝臓の情報を合わせて、場合によっては超音波検査や専門医に紹介するということでしょうか。

石山 そうですね。

池脇 どうもありがとうございました。